

# しあ



福岡志恩病院ホームページ <http://shion-hp.jp/>

～当院2階ロビー～

## ～ご挨拶～

そのだ やすお  
福岡志恩病院 副院長 園田 康男



早いもので今年5月1日をもちまして、福岡志恩病院は開業2年が経過いたします。開業以来1万人以上の患者さんが来院され、地域医療に少しずつ馴染んできた感を実感しております。

閑静な住宅街にあり、2階の病棟から見渡す絶景で気分もリフレッシュできます。入院されましたらご覧になられてください。

当院では、この2年間で脊椎手術、関節手術において1000例以上の手術が行われました。手術は、単に手術とその管理を行うだけではなく、入院中の心の安らぎ、術後のリハビリが合わされ初めて治療として完成すると考えておりますので、その責任と使命を立派に果たしていけますように、職員一同たゆまぬ努力を続けていきたいと思っております。

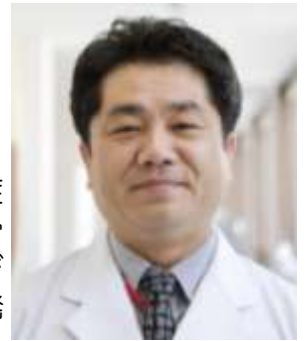
また、スタッフ一同東奔西走しておりますが、外来、入院とお待たせすることが多く申し訳なく思っております。その分も当院が患者の皆様にとりまして、心の安らぎとホスピタリティー溢れる豊かな医療環境を提供できるように精進いたします。

小郡三井医師会ホームページ(<http://www.ogorimii-med.net>)上、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアについての病態、治療について載せていただいております。ご興味がある方は見ていただけましたら幸いです。

# 脊椎圧迫骨折 [vertebra compression fracture (VCF)]

こはし よしひろ

福岡志恩病院 理事長 小橋 芳浩

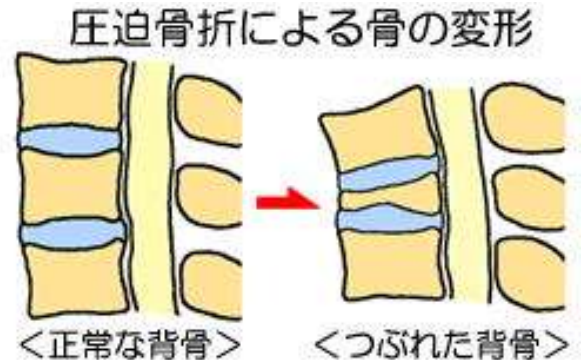


## 1 脊椎圧迫骨折について

高齢社会になり、骨粗鬆症患者の増加とともに、骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折の発症が増えてきております。しりもち等の軽微な外傷によって発症することが多く、骨粗鬆症の程度が高度な患者さんでは明らかな外傷がなく、日常の動作だけで骨折が発症することもあります。脊椎圧迫骨折は骨折部の疼痛以外に各種の障害を併発し、要介護状態となる代表的疾患です。

## 2 未治療の脊椎圧迫骨折がもたらす影響

- ・ 骨痛
- ・ 新たな脊椎圧迫骨折
- ・ 日常生活動作障害
- ・ 神経根症
- ・ 脊髄圧迫による下肢麻痺
- ・ 後弯(亀背)
- ・ 腹部臓器の圧迫 (食欲不振・体重減少・逆流性食道炎)
- ・ 肺機能低下



## 3 脊椎圧迫骨折による脊柱変形の影響

- ・ 慢性かつ消耗性の疼痛
- ・ 肺機能の低下
- ・ 身体機能の低下
- ・ 歩行障害、バランス低下、転倒
- ・ 早期腹満感、胃部不快感
- ・ 睡眠障害
- ・ A D L 低下
- ・ 家族や友人への依存度増大
- ・ うつ
- ・ 更なる骨折のリスク
- ・ 死亡率の上昇



## 4 当院における低侵襲手術(Kyphoplasty)

- ・ 脊椎専用骨セメントを使用したKyphoplasty (Balloon Kyphoplasty: BKP)

従来行われていた骨セメントを使用した治療は、骨セメント自体が人工関節用であり日本国内では一般の施設における脊椎への使用は厚生労働省は認可していないものでした。

2011年に、骨折部を整復するための特殊な器具(Balloon)とセットで脊椎専用の骨セメントが認可されました。骨折の形態等により各種治療が使い分けられるようになってきています。

(次ページへつづく)



## Balloon Kyphoplasty (BKP)



手術前骨折椎体

風船の挿入

風船により骨折を修復

風船を除去  
(セメント充填のスペースができています)

セメントの充填

手術後

(前ページからのつづき)

風船(バルーン)をふくらませることによって、椎体がつぶれている状態(圧潰)や背中側に凸に変形している状態(後彎)を戻してから、非常に粘度の高い骨セメント(樹脂)を注入することから、骨セメントが骨外や血管内へ漏出する危険性が少ないとされています。アメリカでの臨床成績、本邦での治験において、安全性、有効性(疼痛の軽減、全般的な生活の質の向上)が報告されています。

現在のところ日本では、急性期の圧迫骨折には適応がなく、背骨の骨折から6週間前後経過してもなお痛みと変形が続いている場合や、様々な治療を行っても痛みが残っている腫瘍による骨折に適応があります。

## 「寝たきりにならないための骨と筋肉の健康講座」開催

小郡交流センター 研修室

平成25年2月28日(木)

平成25年2月28日(木)に当院の管理栄養士・理学療法士による健康講座を開催いたしました。地域住民の皆様に多数参加して頂きました、ご質問も多数頂きありがとうございました。交流センターの皆様お世話になりました。

普段何気なく行っている運動も方法や意識の向けかた一つで、効果がまったく違う事に気付いて頂けるきっかけになれば幸いです。

運動を行うことは非常に重要ではありますが、何にせよ「適量」が大切です。

自分に見合った量・ペースで行っていきましょう。

理学療法士

ちゅうがんじ あきら あらき よしゆみ  
中元寺 聡、荒木 貴弓



日頃の食生活で気をつけたい食事のバランスや、骨と筋肉のための食事についてお話しさせて頂きました。

骨や筋肉を作るためにカルシウムやタンパク質を摂ることはもちろん大切ですが、食事はバランス良く摂ることでそれぞれの栄養素は役割を果たすことができます。

食事が偏らないように注意しましょう。

皆様の食事に少しでも役立てられればと思います。

管理栄養士

あらき さやか  
荒木 早矢香

### ◆ 福岡志恩病院 ホームページのご案内 ◆

URLは <http://shion-hp.jp/> です。

外来診察担当医師の出張等による休診・変更や、各種イベントの案内、求人情報などを掲載し、随時最新の情報を更新しております。

# Q&A 画像検査のQ&A



みなさん、こんにちは。放射線部長の大浦です。  
さてさて、今回もQ & A形式で皆さまに分かりやすく説明してまいりたいと思っております。

## Question

MR IとCTの違いについて教えてください。それぞれの利点、欠点を教えてください。

## Answer

MR Iは「磁気共鳴画像検査」、CTは「コンピュータ断層撮影検査」の略称です。

どちらも体の断層画像を撮影する検査ですが、最も大きな違いは画像を得る手段です。一言で言うならMR Iは強力な磁石を、CTはX線(エックス線)を使用して目的部位を画像化する検査です。

もうちょっと詳しく言うと、MR Iは強い磁石の力で身体の中の水素原子の配列を変化させて、微弱な電波を用いて画像化し、CTはX線のビームを身体の周囲から照射し、透過したX線量をコンピュータで処理して画像をつくります。

どちらが優れているかは、検査目的や部位により異なりますので、一概に言えません。

部位ごとに見ていくと…

頭部：MR Iの方が圧倒的に優れています。造影剤を使わずに脳や頸部の血管を描出することができます。ただし、検査時間がCTの方がはるかに短いので、緊急の検査などではCTをおこないます。耳鼻科領域(内耳や中耳)はCTの方が優れています。

肺：CTの方が圧倒的に優れています。

腹部：ほぼ同等か、ややCTの方が優れています。ただしCTは造影剤使用が必須です。

子宮や卵巣、前立腺などの骨盤領域：MR Iの方が優れています。

胃や腸などの消化管：CTの方がよいですが、圧倒的に内視鏡にはかないません。

脊椎、関節などの整形外科領域：脊髄、靭帯、半月板、筋肉などは圧倒的にMR Iの方が優れています。細かい骨の状態や3D画像は、CTの方が優れています。

つぎに欠点について話します。

まずCTですが、X線(放射線)を用いた検査ですので、被曝のデメリットがあります。そのデメリットより病気を診断するメリットが優ると判断された場合に検査を行ないます。

MR Iは放射線を用いないので、被曝の心配はありません。ただ、強力な磁力は身体に影響は無いのかということは、「今のところは報告されていない」としか言えません。これは、X線が発見されて医学に利用されるようになって100年以上経過しており、放射線被曝の影響がはっきりしているのに対し、MR Iの方はまだまだ20～30年しか経っていないため、影響については未知の部分があります。

このように強い磁力を用いるMR Iの検査には、様々な制限があります。

ペースメーカーや人工内耳などの医用電子機器が体内に埋め込まれていたり、動脈クリップなどの金属が体内に存在する場合は材質によっては禁忌になります。刺青も禁忌です。

メガネ、ヘアピン、指輪などの装飾品はあらかじめ外していただくとともに、衣服に付いているファスナーやホック、ワイヤーなども影響がありますので、専用の検査着に着替えていただきます。また、マスカラやアイシャドーなどの化粧品の中には磁性体を含む成分を含有しているものがあるため、検査前に落としていただきます。

カラーコンタクトレンズや一部の貼り薬も磁性体を含んでいるものがあるため、あらかじめ外していただきます。

詳細は、検査予約時の問診にてご確認ください。



# くすりのおはなし

福岡志恩病院 薬剤部 萩尾 美奈子

## 痛み止めと胃腸障害

「痛み止めを飲むと胃が荒れる」、「痛み止めで胃を悪くした」など、痛み止めの服用が胃に悪影響を及ぼしているというような声を耳にされたことはありませんか？

はい、これはホントのはなしです。

では痛み止めが、何故、胃に影響を及ぼすのでしょうか？

痛み止めには様々な種類があります。その中でも胃腸障害を引き起こしやすいといわれているのが、**NSAIDs**(Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs : 非ステロイド性抗炎症薬)という種類のお薬です。

NSAIDsは、作用として痛みの原因となる物質の生成を抑えます。

しかし、この痛みの原因となる物質は、実は、胃壁を守る胃粘液の生成を促す物質でもあるため、NSAIDsの服用により胃粘液の生成が抑えられ、胃腸障害を起こしやすくなるというわけです。



## NSAIDsの一例

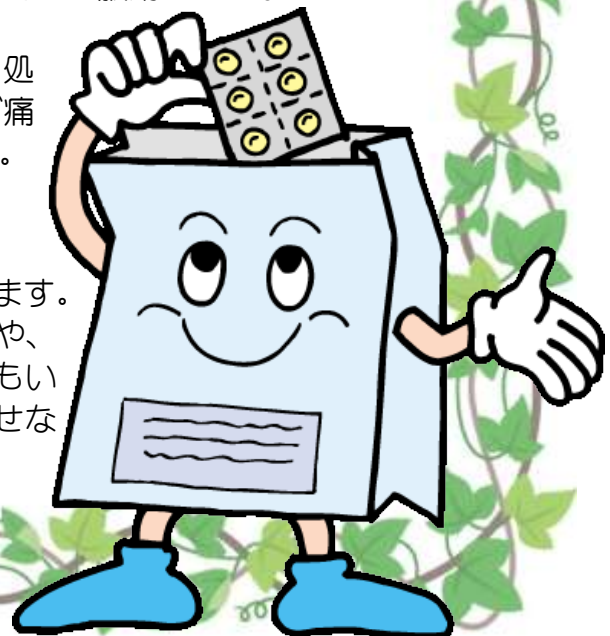
当院で使用しているNSAIDs	ロキソニン ロキソプロフェンナトリウム セレコックス ボルタレン など
市販のNSAIDs	ロキソニンS バファリン イブ ノーシンピュア など

## NSAIDsによる胃腸障害を防ぐには

- ★ なるべく食後に服用しましょう。
- ★ 屯用で服用される場合は、少しお腹にもものを入れてから服用しましょう。
- ★ 多めのお水で服用しましょう。
- ★ 病院から処方される痛み止めには、胃薬と一緒に処方されることが多いと思います。その場合は必ず痛み止めと胃薬と一緒に服用するようにしましょう。

## 最後に…

痛み止めの服用で、重大な副作用が起ることもあります。また、そのお薬の成分にアレルギーをお持ちのかたや、そのお薬を服用してはならない疾患をお持ちのかたもいらっしゃると思いますので、自分のお薬を他の人に服用させないでください。



## ◆ 常勤医師の紹介 ◆

しだ よしてる

### 志田 義輝 医師

はじめまして、志田（しだ）と申します。

私はこれまで北九州市の九州労災病院で4年間、長崎県の佐世保共済病院で4年間研鑽を積み重ねて頂き、このたび当院に勤務することになりました。

学生時代はソフトボール・水泳・サッカー・バスケットボール・バドミントン・ソフトテニス、などなど幅広く（浅く？笑）スポーツに愛好してきました。

私自身、中学2年生の時に膝のスポーツ障害で整形外科の手術を受け、痛みから解放された体験が今日の整形外科医という私の進路につながっています。

私の生まれ故郷・佐世保では、主にその膝関節疾患全般に加え、股関節の人工関節手術・一般外傷も担当させて頂いておりました。当院での勤務にあつては自身の得意分野を生かしつつもそれに固執せず、地域の患者さんのニーズに柔軟に合わせながら専門医として幅広く整形外科全般の診療を、と考えております。

また、私の信条として患者さんの満足度を重要視しています。患者さんの中には医師にはどうしても話しづらいといった気持ちがあるようです。もちろん看護師さんをはじめ、関係スタッフにご相談頂いても結構ですが、どうぞ私にも気軽に希望をご相談ください。やさしく話しやすい雰囲気作りを私は大切にしております。

最後に、今後私はこの地域で腰を据え質の高い診療を心がけようと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

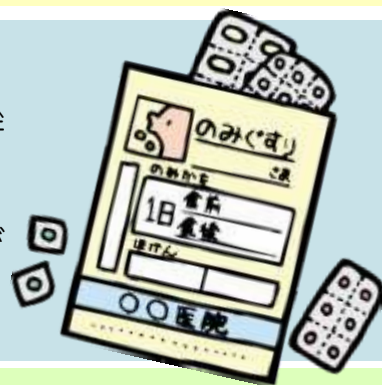


## ◆ 薬剤部からのお願い ◆

現在、使用中のお薬（飲み薬、吸入薬、貼り薬、塗り薬、目薬、坐薬、自己注射等）がありましたら、その内容がわかるお薬の説明書、又は、お薬手帳をご持参頂きますようお願いいたします。

入院される際には、ご使用中のお薬について検査や手術等で支障が無いか確認させていただきます。

詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。



## ◆ お知らせ ◆

平成25年4月1日より、外来診察担当医師の診療曜日が一部変更になっております。

当院ホームページや待合室の掲示版等でご確認下さい。



## ◆ 編集後記 ◆

福岡志恩病院広報誌「しおん」の編集委員、栄養科の荒木です。志恩病院も開院して2年が経ちました。早いですね～。

寒かった冬が過ぎて冷たい空気も緩み、春の野菜も食べ頃です。

春の野菜の特徴と言えば「ほろ苦さ」ですが、この苦味が胃腸の働きや細胞の新陳代謝を活発にしてくれます。また、冬の間ため込んだ老廃物を身体の外に出してくれる働きもあります。

春の野菜を食べて身体の中からきれいになりましょう。

